



倭文神社は奈良市西九条町、旧の字名、辰市に鎮座しており、この地は春日大社の杜家（神主）が最初に居住した辰市郷で、「大和名所図会」（1791年刊）には「倭文社、俗にひずりのやしろ」とありま

す。祭神は武甕槌雄命、経津主命、誉田別命の三神で、武甕槌雄命は武甕槌命が常陸国を平定



三神で、武甕槌雄命は武甕槌命が常陸国を平定

## 倭文神社（奈良市）

（住所）奈良市西九条町2の14の2  
（祭神）武甕槌雄命、経津主命  
（交通）近鉄・九条駅から東へ徒歩

約25分  
（拝観）境内自由  
（駐車場）なし  
（電話）なし

2年、この地に倭文神社の旧本殿を移したと伝わっています。

される際に武甕槌命に反旗をひるがえした神（香背男）を討った神で、また倭文の神（織物の神）ともされています。武甕槌命が鹿島神宮から御蓋山の頂に降臨された時、侍従、中臣時風・秀行氏が768（神護景雲）で若宮摂社三十八所神社

中臣一族が鹿島神宮で行っていた祭祀を辰市郷でも行ったといわれています。この中臣時風・秀行氏は「鹿島立神影図（奈良国立博物館所蔵）」の下に描かれている人物です。本殿は春日移しの社殿で若宮摂社三十八所神社

倭文神社の秋祭りは、スポーツの日の前日の日曜日（今年は10月13日）に行われ、「蛇祭り」と呼ばれています。この祭りは大蛇に人身御供（子供）を捧げる昔の風習を今に伝える、民俗学的にも大変興味深いお祭りです。現在には人身御供を表した神饌が供されています。（奈良まほろばソムリエの会会員 青木章二）

# 常陸平定に貢献 織物の神

の会会員 青木章二